

(仮訳)

プレス・リリース

2025 年 11 月 19 日

バーゼル銀行監督委員会（以下「バーゼル委」）は、バーゼルⅢの実施を引き続き優先するとともに、サードパーティリスクに関する諸原則の最終化を承認し、暗号資産に係る基準の的を絞ったレビューを迅速に進めることに合意した。

- バーゼルⅢの完全かつ整合的な形での実施を優先することを改めて強調。
- 健全なサードパーティリスク管理のための諸原則の最終化を承認。
- 銀行の暗号資産エクスポージャーに係る健全性基準の的を絞った要素のレビューを迅速に進めることに合意。

バーゼル委は、2025 年 11 月 18-19 日にメキシコシティで会合を開催し、様々な取組みについて議論した。

金融安定の見通し

バーゼル委メンバーは、最近の市場動向及びグローバルな銀行システムの見通しについて意見交換を行った。マクロ経済及び地政学的な不確実性、クレジット・資金調達市場の動向、並びに様々なオペレーショナルリスクが、多くの監督当局にとって引き続き重要な焦点となっている。

バーゼル委は、銀行によるシンセティック・リスク・トランスファー（SRT）の利用について議論した。SRT 市場は過去 10 年間で急速に成長し、SRT 投資家は銀行の信用リスクに係る資本軽減の重要な源となっている。規制・監督上の改革により、SRT は世界金融危機以前に用いられていた信用リスク移転よりも簡素なものとなっているが、銀行及び監督当局がこうした取引に起因する潜在的なリスクに対応することが重要である。

金融のデジタル化

第3の柱の[開示枠組み](#)は、市場参加者が銀行のリスクプロファイルに関する重要な情報にアクセスすることを可能とする。バーゼル委は、データのアクセシビリティ及びユーザビリティの向上を通じて、重要な公益を提供するため、これらのデータを機械可読性の高い形式で利用可能とする措置について、市中協議を行うことで合意した。市中協議文書は 12 月に公表される予定である。

また、バーゼル委は、昨年の[市中協議](#)を踏まえ、銀行セクターにおける健全なサーードパーティリスク管理のための諸原則の最終化を承認した。最終化した諸原則は来月公表される予定である。

さらに、バーゼル委は、最近の金融テクノロジーの動向、特に銀行による人工知能の利用事例やデジタル詐欺の傾向について議論した。バーゼル委は、こうした動向を引き続き注視していく。

実施状況

バーゼルⅢの完全かつ整合的な形での実施は、バーゼル委にとって引き続き最優先事項であり、これは最近、バーゼル委の上位機関である中央銀行総裁・銀行監督当局長官グループ（GHOS）によって[再確認](#)されている。

バーゼル委は、[規制の整合性評価プログラム](#)（RCAP）の一環として、英国の安定調達比率（NSFR）及び大口信用供与の枠組みの実施に関する審査報告書をレビューし、承認した。報告書は来月公表される予定である。また、バーゼル委は、RCAPによる各法域評価で共通の乖離が認められた分野に焦点を当てる形で、NSFR 規則についての的を絞った見直しを行うことで合意した。

バーゼル委は、公表物のアクセシビリティを向上させるため、ガイドライン及びサウンド・プラクティスを使いやすい形式に統合することについて市中協議を行うことで合意した。このアプローチにより、既存のガイダンスが大幅に簡素化され、[統合された](#)バーゼル基準と同様の形式を採用することとなる。市中協議文書は 2026 年第 1 四半期に公表される予定である。

さらに、バーゼル委は、銀行の暗号資産エクスポージャーに係る健全性[基準](#)の実施状況を確認した。最近の暗号資産市場の動向を踏まえ、バーゼル委は、当該基準の的を絞った要素のレビューを迅速に進めることで合意した。

極端な気象事象が及ぼす金融リスク

本年前半に GHOS から示された[方向性](#)を踏まえ、バーゼル委は、極端な気象事象が銀行に及ぼす金融面での影響に関するさらなる分析作業を進めることで合意した。